

---

嬢

s

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

嬢

### 【Nコード】

N4140A

### 【作者名】

S

### 【あらすじ】

ある女の子に起こったお話です。

## く序章く

『姫』と呼ばれていたのは、今から2、3年前だったろうか。  
苦手だな、過去を振り返るのは・・・

きっかけはなんでもよかった。

本心が望んだものなのか、それとも決まっていた、、運命ウンメイなんて言いたくない。

でも、物欲の強いあたしのことから、やっぱり運命サダメだったのか  
な・・・

19歳の6月、あたしは風俗嬢になった。

## 第二章

あたしの職業は《デリバリー風俗嬢》。

たった60分だけのこと。

いつも過ごす時間より早く感じた。

今までのバイトの時間よりも何倍もの時給、笑って体に触れる、ベツトに寝て”仕事”をこなす。

何をするよりも簡単で高収入。

この世界に浸かるのに時間はいらなかった。

（お金ってこんなに簡単に手に入るんだ・・・）

こう思ったのは、仕事の初日、日を跨いで朝の5時、たった8時間の”労働”で、64000円を帰り際に渡された時だった。

朝日が嫌いになった。

翌日も出勤した。

あの頃、新人は特に人気があった。

あたしは15時からの出勤。

大抵、1日3～5本の予約があった。

外見には自信があった。

予約が入って当たり前とも思っていた。

他の子があたしの人気を嫉むのさえ心地よかった。

そしてお金を稼ぐ喜びを知ったのだから、あたしはお金を稼ぎに出勤することに嫌悪を感じなかった。

お店が、お客さんがあたしを必要としてくれるのならば、あたしは喜んで《嬢》を演じよう。

あたしがいたお店は、この世界では老舗と言われていて、3年目と長く続いている、安定したお店だった。

女の子の出勤数は毎日5〜8人といった少人数ではあるが、量より質とはよく言ったもので、女のあたしから見てもホントに可愛らしく、目が合うだけでドキドキする女の子もいた。

人見知りするあたしがこのお店で初めて会って、初めて話した女の子が、この店ナンバーワンの『レイナ』さんだった。

彼女を初めて見たとき、目を疑った。

25歳の彼女は、色白で華奢の、正にお人形だった。

更に彼女は話しても期待を裏切らなかった。

部屋に入ってあたしを見たとき、大きな瞳を大げさな程にさらに大きくし、細く綺麗に手入れされた指先をあたしに向け、

「だあれ？」

と、首をかしげた。

澄んだ声だった。可愛くもあり、綺麗な声だった。

この一見だけ、たった5秒にも満たない時間の中で、あたしのこの世界に対する見方が変わったのだらう。

（こんな子もいるんだあ・・・）と。

店長と呼ばれる男があたしを彼女に紹介する。

「昨日から入った、えーっと、、名前何にしよう？」

「ええー、まだ決めてあげてなかったの？」

「しおん！」

「しおんちゃんって可愛くなあい？決定！」

彼女があたしに近づきこう言った。

「しおんちゃんよろしくね。あたしはレイナ。」

手を差し出す代わりに、彼女はあたしにキスをした。

甘く濃厚な香水の香りと共に、彼女からの歓迎の刺激が体中に駆け巡った。

あたしはその日から《しおん》となった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4140a/>

---

嬢

2011年1月27日13時52分発行